戦の大義と士気

大和田囲碁同好会　成田　滋

ウクライナにおけるロシア兵士からの戦地の内情が報道されています。兵士たちは劣悪な環境に置かれ、部隊の士気も相当低かったなどと告白しています。「部分動員令」により招集された兵士が、早くもウクライナ軍に投降したとの噂も広がっています。戦における兵士の士気を考えるのが本稿です。

丁度アメリカ独立の歴史を調べていたところ、南北戦争における黒人兵士の活躍に出会いました。建国以来、アメリカでは南部と北部は常に対立関係にありました。「地域的分断」という状況です。その最たるものが、奴隷制度を巡る対立です。綿花を中心とする農業に依存する南部では奴隷労働は不可欠でありました。黒人の一般公共施設の利用を禁止制限した「ジム・クロウ法」という悪法もありました。南部 11 州が合衆国から離脱し、アメリカ連合国を結成します。これに対して工業や金融産業が発達していた北部は合衆国として 20 の自由州としてから形成され、奴隷制度に反対していました。そして対立が激化して起こったのが南北戦争と呼ばれる内戦--Civil War です。

映画「グローリー（1989）

北軍は南軍との戦で苦戦を強いられ兵士の不足に悩んでいました。そこで 1863 年に 1,007 人の黒人兵と 37 人の白人将校で構成された第 54 マサチューセッツ歩兵連隊が結成されます。全黒人部隊の第 54 歩兵連隊にロバート・ショー大佐が指揮官に任命されます。やがて南部の地域に奴隷解放宣言や兵士募集のビラがばらまかれ、数多くの奴隷たちが農場主から離れていきます。募集に応じた黒人ほとんどが南部からの脱走奴隷でした。黒人は明日への誇りを賭けた熱気を秘めていました。当初は靴も軍服も支給されなかったのですが、それでも奴隷解放と自由を得られるという希望によって参戦できる日を

待望しながら、厳しい訓練に耐えます。「徴兵」や「部分動員」とは違いました。

ショー大佐は黒人を素晴らしい兵士として敬意を払います。白人兵は月給 10 ドルであったのに対して黒人兵は 7 ドルであることを知ります。彼はこの不平等が改善されるまで兵役をボイコットさせるのです。第 54 歩兵連隊と姉妹部隊の第 55 歩兵連隊は、1864 年に合衆国議会が黒人の給料を白人と同じ金額にするまで給与の受け取りを拒否したという逸話も残っています。

南軍もまた黒人を貴重な後方戦力として使います。奴隷は重要な兵站を担当し、食糧を用意し、兵士の制服を縫い、鉄道を修理し、農場や工場や鉱山で働き病院などで労働したりしました。しかし、奴隷からの解放と自由の獲得という大義は南軍にはありませんでした。ここに北軍と南軍の兵士の士気の違いがはっきり表れました。戦の勝利には大義と士気の高さが必要だったのです。南北戦争の終結までに、約 18 万人以上の黒人兵士達が北軍に従軍し、北軍勝利への重要な役割を果たしました。国民や兵士の士気や抵抗の意志がいかに重要であるか、それを物語るのが南北戦争の一側面です。

大義の欠如や士気の高まらない戦は、ナポレオンやヒットラーらの侵攻のように結末が近いと思われます。

2022 年 10 月 6 日